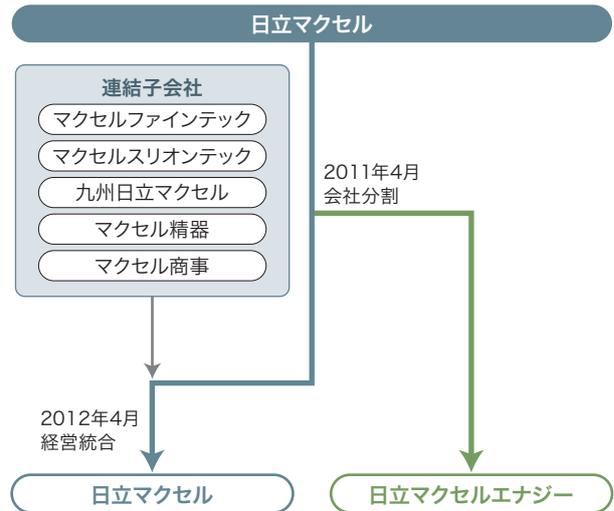


経営体制の変更について

2011年4月1日、日立マクセル株式会社は、会社分割によって新会社日立マクセルエナジー株式会社を設立し、電池事業を承継させました。他の基盤事業と電池事業の意思決定プロセスを分けることで、それぞれの事業における意思決定を迅速化することが狙いです。

さらに、2012年4月1日より、連結子会社5社(右図参照)を吸収合併した新体制をスタートさせました。各社が培ってきた独自技術などの経営資源を結集することで、ユニークな発想を生み出すなどの効果につなげるとともに、経営体質の強化を図ったものです。

これらの体制変更により、グローバル市場での競争力を高め、いっそうの成長を目指します。



CSR活動報告

<http://www.maxell.co.jp/jpn/csr/index.html>
WEBでも情報を開示しています。

CSRマネジメント

CSR活動の考え方

マクセルグループ、マクセルエナジーグループでは、CSR活動を体系的かつ継続的に行うため、グループの果たすべき使命と役割を示す「企業行動基準」を定め、「CSR活動取り組み方針」を策定することで、従業員の実践的行動を促しています。

また、日立グループ全体で相乗効果が得られるよう、各社と緊密に連携しています。

CSRマネジメント

(CSR活動の自己評価とその結果)

マクセルグループ、マクセルエナジーグループでは、日立グループで開発されたCSRセルフアセスメントツールに基づき、

CSRのあるべき姿に対する位置づけと方向性を検証しています。このツールは、世界の主要なSRI※1評価やGRI「サステナビリティリーディングガイドライン2006」などの評価項目をもとに、外部コンサルティング会社の協力を得て作成されたものです。8つの方針にそって活動の現状を自己評価・分析することで自社の強み、弱みが明確になり、取り組みの目指す方向や活動効果の検証が可能になります。

2011年度は、評価が低かった生態系保全に関する内容を環境方針に取り込みました。また、購買取引先にも、生態系保全の方針を反映した「グリーン調達ガイドライン」の改訂版を配布しました。

コーポレート・ガバナンス(企業統治)

マクセルグループ、マクセルエナジーグループでは、「その創業の精神である“和協一致”、“仕事に魂を打ち込み”、“社会に奉仕したい”」をさらに高揚させ、日立マクセル人としての誇りを堅持し、優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献すること」を基本理念に明記しています。

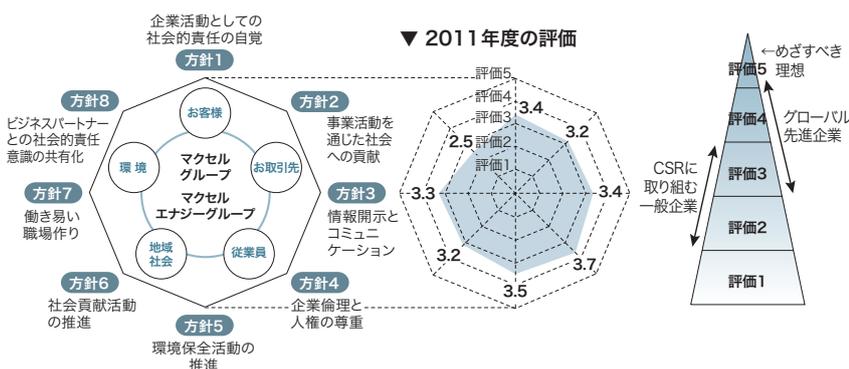
この理念の実現に向けて、「基本と正道」に則り、企業倫理と法令遵守に根ざした事業活動を展開するため、「日立マクセルグループ行動規範／日立マクセルエナジーグループ行動規範」を制定しています。さらに、適正な経営体制の構築、内部統制システムの整備を進め、企業の持続的な発展のために不可欠なコンプライアンス体制の整備にも随時取り組んでいます。

また、リスクコントロールの観点から、強毒性インフルエンザや大規模自然災害といった、予期せぬ出来事によるリスクに対応するための事業継続計画(BCP※2)の策定も進めています。日立マクセルと日立マクセルエナジーでは、2011年7月に新型インフルエンザ、2012年3月に大規模地震に対するパイロットBCPの策定を終えました。

※1 Socially Responsible Investment
社会的責任投資

※2 Business Continuity Plan 事業継続計画

CSR活動の自己評価とその結果



お客様とともに

お客様満足(CS)の向上

マクセルグループ、マクセルエナジーグループでは、「お客様満足(CS)の向上」を目指して、「お客様ご相談センター」が事業部門と連携して、お客様の声を製品、サービスに反映させる活動を積極的に展開しています。例えば、お客様のご意見・ご要望を反映し改良した「CS製品」の創造に注力している

ほか、お客様ご相談センターでは、お客様からのご質問やご相談に迅速かつ適切に応えるように努めており、「応答率」「サクスコール率」を指標として活用しています。

2011年度の応答率は85%、サクスコール率は5.0%で、いずれも前年に比べ若干低下しました。

製品責任と品質の向上

2011年度は、製品の絶対品質を向上する「自工程品質保証活動」を強化・推進し、お客様に安心してお使いいただける製品を提供できるよう努めました。

なお、2011年度に新たに公表した製品の不具合は、ブルーレイディスク(BD-RE)の異品種混入、iVハードディスクレコーダー(VDR-R2000)の電源不具合、ブルーレイディスク(BD-R)の再生不具合の3件でした。

Topics

置くだけで手軽に充電できるワイヤレス充電器「エアボルテージ」

「スマートフォンを簡単に家庭や職場で充電したい」という声に応じて開発した携帯端末を充電ステーションの上に置くだけで充電できるワイヤレス充電システムです。ワイヤレス充電標準規格「Qi」に対応し、同規格の準拠品であれば異なるメーカーの端末も充電可能。専用カバーを端末に装着すればiPhone4※1にも適用できます。



本製品は、日本経済新聞社主催「日経優秀製品・サービス賞(第30回)」において、「優秀賞 日経産業新聞賞」を受賞しました。

さまざまな使用シーンに対応したハイパワー蓄電池「Energy Station」

東日本大震災以降のお客様の防災意識の高まりを受けて、くり返し充電できるリチウムイオン電池搭載、最大出力1,200Wの家庭・オフィス用ハイパワー電源を開発しました。排気レス仕様で、発電機のような騒音もなく、夜間、室内などでもご利用いただけます。さらに、片手で持てるキャリングハンドル付きで、持ち運びに便利なポータブル設計。複数台を連結することで容量を拡大することもでき、さまざまなシチュエーションでお使いいただけます。



※1 iPhoneは米国およびその他の地域で登録されているApple Inc.の商標です。



お客様とともに

マクセル
マクセルエナジー

お客様ご相談センターでの対応の様子

お取引先とともに

お取引先とともに

購買取引先との公平な取引

マクセルグループ、マクセルエナジーグループでは、日立グループの「資材(購買)取引行動指針」を運用し、購買取引先との公正な取引に努めています。また、この行動指針を会社規則にも適用し、従業員への周知徹底を図っています。2011年度はグループ会社を含む全従業員を対象としたeラーニング、管理職を対象とした「調達基本業務・遵法セミナー」を実施しました。

購買取引先とのCSR意識の共有に向けて

マクセルグループ、マクセルエナジーグループは、事業部による「事業方針説明会」や年初の「賀詞交歓会」などを通じ、購買取引先とCSR意識を共有しています。

2012年1月に開催した賀詞交歓会、3月に開催した方針説明会では、社長より購買取引先の皆様に「CSR推進への御協力」「基本と正道の徹底」をお願いしました。



事業方針説明会

CSR調達の推進

マクセルグループ、マクセルエナジーグループでは、日立グループ作成の「CSR活動取り組み方針」「日立グループサプライチェーンCSR推進ガイドブック」にそって、CSR調達を推進しています。

2011年度は、「グリーン調達ガイドライン(改定版)」を購買取引先に配布しました。その内容を通じて、日立の環境ビジョンである「地球温暖化の防止」「資源の循環的な利用」「生態系の保全」についてあらためてご確認・ご理解いただきました。

Topics

資材の共同配送でCO2排出量を削減

日立マクセルエナジー調達本部・マイクロ電池事業部では、関西圏の資材取引先6社を巡回して材料を集荷・配送するトラック定期便を新たに設けました。取引先ごとに別のトラックで送っていた材料をひとつのトラックが回収するようにしたことで、CO2排出量を2.61トン削減できました。



共同配送便のトラック

従業員とともに

多様性の確保

マクセルグループ、マクセルエナジーグループでは、「人権の尊重」、「差別の撤廃」を「行動規範」に明記し、平等な雇用・人事システムの構築、人権啓発に取り組んでいます。

日立マクセル、日立マクセルエナジーの2011年度の障害者雇用率は2.1%、定年退職者再雇用人数は31名、外国人雇用は21名となりました。

労働安全衛生活動

日立マクセル、日立マクセルエナジーは、「労働安全衛生基本方針」のもと、労働安全衛生活動を展開しています。2011年度は、昨年度に引き続き、国内各事業所の「安全衛生委員会」が推進役となって、安全衛生活動の維持向上に努めるとともに「OSHMS※1」に準じたマネジメントシステムの構築を進めました。

働きやすい職場づくり

日立マクセルは、2009年6月に「次世代育成支援認定マーク(愛称:くるみん)」を取得するなど、働きやすい職場づくりに取り組んでいます。従業員それぞれに合った多様なワークスタイルの実現を支援します。



※1 Occupational Safety and Health Management Systems 中央労働災害防止協会が認定する労働安全衛生マネジメントシステム

地域・社会とともに

社会貢献活動

マクセルグループ、マクセルエナジーグループでは、CSR活動取り組み方針に「良き企業市民として、より良い社会を実現するため、社会貢献活動を積極的に推進

します」と定めています。この方針にそって、「教育・文化支援」「環境保全・美化」をテーマに、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションや、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。



従業員とともに

ワークライフ
バランスへの配慮

グループ
セル
グループ

地域・社会と
ともに

花いっぱい運動

その他の社会貢献活動

- 事業所周辺や地域の清掃活動に延べ1,400名以上が参加(東京ビル、大阪事業所、京都事業所、小野事業所、ファインテック事業本部、スリオンテック事業本部、九州マクセル事業本部)
- 工場見学、体験学習、インターンシップで657名の方と交流(大阪事業所、京都事業所、ファインテック事業本部、スリオンテック事業本部、九州マクセル事業本部)
- スポーツ、防災、産業振興などの地域イベントに参加・協賛(大阪事業所、京都事業所、小野事業所)
- 海外で製品の寄付を実施(フランス)。自然保護、清掃、献血、募金などのボランティア活動やスポーツイベントに参加・協賛(中国、マレーシア)

社外からの評価

- 東日本大震災の被災地支援に対して、経済産業大臣から感謝状を拝受
- エアポルテージが「日経優秀製品・サービス賞(第30回)」において「優秀賞 日経産業新聞賞」を受賞
- レジプロシューバー「RM-F417」「RM-F413」が2011年度グッドデザイン賞を受賞
- イオンレンジング器フェイスクリエNC-550が、九州地方発明表彰において、「特許庁長官奨励賞」を受賞。本製品の発明功績から「実施功績賞」が授与
- テレビCM「ずっとずっと。最後の授業」篇が(社)日本アド・コンテンツ制作社連盟の「日本のCM500選」に選出
- (財)日本緑化センターの緑化優良工場等表彰制度により、会長奨励賞受賞(大阪事業所)
- 障がい者雇用優良事業所として厚生労働大臣表彰を受賞(九州マクセル事業本部)
- 無錫市環境保護局から「緑色企業」として10年連続表彰(Wuxi Hitachi Maxell Co., Ltd. 中国無錫工場)
- 優れた環境保全活動に対して兵庫県農政環境部から「兵庫県環境にやさしい事業者賞」を受賞(小野事業所)

Topics

「電池手づくり教室」の開催

日立マクセルエナジー本社(京都)では、子供たちの科学への意識を高める「京のエジソンプログラム」に協賛し、出前講座「電池手づくり教室」、「親子で作ろう乾電池」教室を開催しています。2011年度はあわせて17カ所で開催し、延べ1,150人が参加しました。



学校教育現場への出前講座「電池手づくり教室」

海岸清掃の実施(マレーシア)

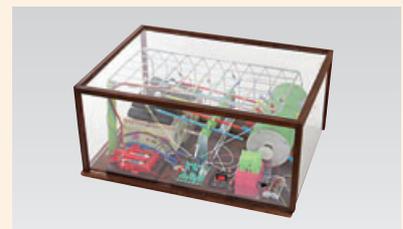
Maxell Tohshin (Malaysia) Sdn. Bhd. (マレーシア工場)で、2011年11月、環境キャンペーンの一つとして、行政の協力のもとで地元の海岸の清掃活動を実施しました。当日は従業員44名が参加し、海岸をきれいに清掃しながら、環境保全活動の重要性を再確認しました。



地元海岸の清掃活動

第6回「kids電池工作コンクール」に協賛

日立マクセルは、「kids 電池工作コンクール」に協賛しています。今回で第6回目となるこの催しは、手づくり工作体験を通して、子供たちに科学に興味をもってもらうことを目的としたもので、毎年多くの応募作品が寄せられています。



最優秀賞「炭琴(たんきん)オルゴール“ぶんぶん”

WWF※2の環境イベントに参加(中国)

Maxell Asia, Ltd. (販売会社)は、WWF香港が主催する“Walk for Nature”に4年連続で参加しています。このイベントは、野鳥の飛来地として知られる米埔自然保護区で毎年実施されているもので、参加者は野鳥観察を楽しみながら約5キロの道程を歩き、自然保護に向けた募金を集めます。2011年度は12名が参加しました。



米埔自然保護区での野鳥観察

※2 World Wide Fund for Nature 世界自然保護基金